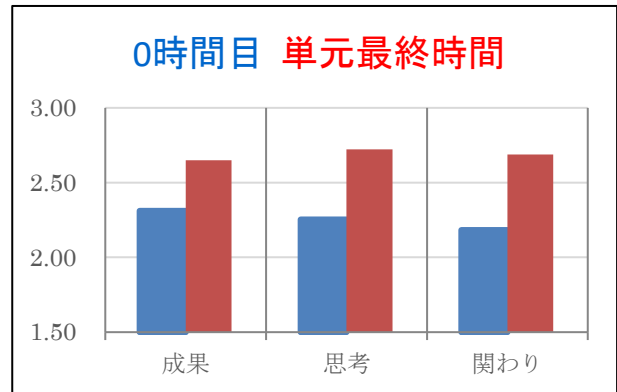
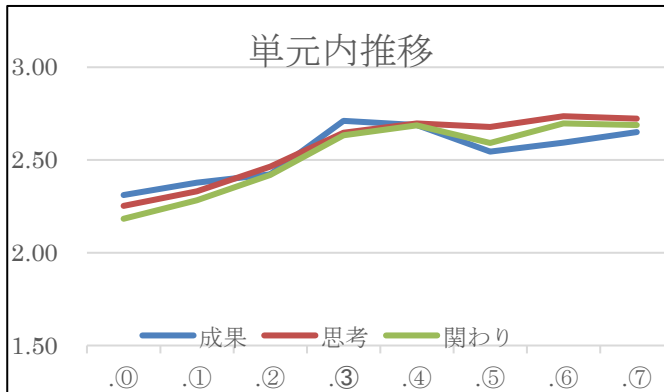


1 単元名 バンッ！おでこ！ピタッと着地！～頭はね跳び～

(器械運動・跳び箱運動)

2 児童の変容

(1) 情意面 (形成的授業評価をもとにした授業評価から) 男子18名 女子14名 計32名



- ・「成果」は単元前よりも数値が高くなった。児童一人一人が自分の課題に合っためあてを立てて、技能を高めることができた結果だと考察する。また、単元前半での数値の伸びが顕著となっている。これは全体で技のポイントを学習する際に、必要な知識を獲得して、技能を向上させるための練習をすることができた成果であることがうかがえる。
- ・「思考」は単元前よりも単元最終時間の数値が高くなった。特に、単元の後半では高い数値を記録することができた。これは、単元前半で獲得した知識を使って、子供たち自身が思考する学習ができた結果だといえる。この結果から、単元前半部分での知識の獲得が、子供たちの思考に大きく影響することが考えられる。
- ・「関わり」は単元前よりも単元最終時間の数値が高くなった。単元の始めから、見合いや教え合いの活動を取り入れて、子供たち同士で関わりがもてるような指導を続けた成果だといえる。今後は、より見合いや教え合いのポイントを押さえて、子供たち同士のアドバイスの内容を精査していけるような指導を行ってきたい。

(2) 技能面

	①ブリッジ (姿勢が保っている)			②台上前転 (腰を高く上げている)		
	できる	もう少し	できない	できる	もう少し	できない
単元前	28	3	1	14	5	13
単元後	30	1	1	20	7	5
	③膝伸台上前転 (膝が伸びている)			④頭はね跳び (空中で足を投げ出している)		
	できる	もう少し	できない	できる	もう少し	できない
単元前	6	3	23	4	3	25
単元後	15	8	9	10	4	18

- ・単元前と比較して数値の上昇が見られる。これは、授業の前半部分に体慣らしの運動として、技能向上に必要な動きを取り入れながら、運動を行ったことが要因であると考えられる。また、単元の後半部分では、子供たち一人一人がそれぞれに課題をもって、練習に取り組む姿勢が見られた。このような取組が技能面の習得に役立ったと考察できる。
- ・学年の実態として、頭はね跳びに取り組むことが難しい児童が多くいたため、台上前転や膝伸台上前転といった前段階の技に挑戦する場を設定した。子供たちが意欲をもって技に挑戦するために、多くの場の設定が必要だと再確認するとともに、低学年段階からの積み重ねが、高学年の技の習得には必要であることを改めて認識する形となった。

(3) 思考面

問 頭はね跳びができるようになるために、どのような練習や取り組みが必要だと思いますか（しましたか）。（複数可）			
単元前		単元後	
・手でマットをしっかりと押す	1 6	・友達同士で見合い、アドバイスをした	2 4
・勢いよく踏み切る	1 3	・腰を高く上げる練習をした	1 8
・三点倒立をする	1 1	・勢いよく踏み切る練習をした	1 5
・頭頂部を跳び箱につける	9	・おでこをつける、最後まで跳び箱を見続ける練習をした	1 3
・空中で足をそろえる	7	・手の突き放しを強くする練習をした	1 1
・空中で膝を伸ばす	7	・膝を伸ばす練習をした	9
・壁倒立をする	4	・ステージの上から練習したり、道具を使って練習したりした	8
・踏み切りの練習をする	4	・着地で両足をそろえる練習をした	7
・ブリッジの練習をする	3	・腰が流れないように練習した	5
・腰を高く上げる	3	・空中であおりがでてくるような練習をした	5
・ステージの上から着地の練習をする	3		
・手と手の間に頭をつける	3		

- ・頭はね跳びの知識が定着し、技能ポイントを踏まえた取組や学習についての記述が増えた。特に、頭頂部をつけることが大切だといった記述が減り、おでこを跳び箱につけることや跳び箱を見続けることが大切だと考える児童が増えたことが印象的である。
- ・獲得した知識を友達同士で見合い、アドバイスすることが大切だと考える児童が多く見られた。友達同士の関わり合いの中から、技能の習得を目指したことがうかがえる。

3 成果と課題

高学年のめざす姿

課題に対しての自分の考えをもったり、仲間と試行錯誤したりするとともに、解決する場や方法を伝え合う児童

【成果】

- ・フローチャートを活用し、学習板に掲示することで、児童自身が課題となっている部分を確認することができた。また、全体指導を行う際に、フローチャートを活用することによって、視覚的にわかりやすく子供たちに伝えることができた。
- ・子供たちが毎回の授業内で自分自身の課題に取り組むことができるように、場の設定を工夫した。自分の課題に合った場を選んで、練習したことによって、技能の習得を可能にすることができた。また、同じ課題をもった子供たちが集まり、見合いやアドバイスをし合うことによって、関わり合いの中での技能の向上が見られた。
- ・学び合いの仕方を体育の学習に限らず、年間通して重点的に指導をすることによって、子供たち同士の関わり合いが、より活発になった。また、教師だけでは見切ることが難しい場面でも、子供たち同士の見合い活動によって、意欲を高く保ちながら学習に取り組むことができた。

【課題】

- ・子供たち同士の見合い、教え合いの活動は活発になったのだが、話し合いの内容には改善の余地があるように感じている。見るポイントをより明確にして、技能向上のための的確なアドバイスができるように、全体指導の場面等を用いて、今後も引き続き指導していきたい。
- ・子供たちの実態に合わせて、場の設定を工夫したのはよかったのだが、自身の課題に合っていない場で練習に取り組んでいる児童が見られた。安全面の確保も難しくなってしまうため、改善が必要であると感じている。教師の声掛けを増やしていくとともに、子供たち同士で「この場は合っていないのかもしれない」「別の場で練習してみたらどうだろうか」といった声が出てくるような環境づくりを行っていきたい。